

令和4年度デジタル田園都市国家構想推進交付金事業の取り組み 全域

令和3年度から長崎県では、スマート農業を重要な柱として各地で様々な取り組みを展開しています。

令和4年度からは、長崎県スマート農業高度化支援サービス事業が始まりました。本事業の目的は、農業従事者の高齢化等により、産地の維持発展が課題であり、生産性が高い農業が実現できるスマート農業の技術体系の確立と導入を図ることです。そこで、県が主体となって園芸・畜産の主要品目において、各産地にスマート機器を設置し、データを収集・分析することで、品目ごとに技術体系の基準化を図ります。

また、鳥獣害対策においてもデジタル技術を活用し、捕獲・防護対策の強化により被害を軽減することで営農意欲の増大・産地の維持を図ります。

1. 施設園芸

野菜、花き農家を対象に長崎型統合環境制御機器（加温機、炭酸ガス発生装置、循環扇を制御）を導入し、生産量の拡大、品質向上により、所得の向上を図っている。

2. 畜産

肉用牛や酪農を対象に発情発見装置（ファームノートカラー）を導入し、飼養牛の活動通知による適期人工授精や管理記録の可視化により生産性向上を図っている。

3. 鳥獣対策

モデル市町（諫早市、大村市、西海市、東彼杵町、川棚町、波佐見町）の捕獲従事者に捕獲アプリを導入し、捕獲従事者や市町職員の業務負担を減らし、効率的な捕獲対策を実証している。

取り組み

1. 施設園芸

○野菜（イチゴ、トマト、ミニトマト、きゅうり）や花き農家へ28台導入し、各品目で環境制御技術の習得を図るために定期的な勉強会の開催や県主催の技術研修会へ参加している。

○勉強会は野菜で37回（令和5年3月末まで）、花きで15回開催。

○勉強会では、農家が行う生育調査結果や出荷量の把握、ハウス内環境データを基にこれからの栽培管理をどう考えていくかをみんなで意見交換し、技術向上に結びつけている。

2. 畜産

○ファームノートカラーは、県央振興局全体で7台導入（県央5台、長崎西彼2台）。

○2月末に装置が取り付けられ、現在飼養牛の活動記録等がスマートフォン等で確認できるようになった。

○定期勉強会の開催により情報共有を行い、経営改善に結びつけている。

3. 鳥獣害

○捕獲アプリによる登録頭数（令和5年3月10日現在）

- ・西海市（43）・諫早市（48）・大村市（39）・東彼杵町（107）
- ・川棚町（35）・波佐見町（1）

合計 273頭



いちごでの勉強会風景



ファームノートカラー